

火3クラス、水1クラス、金1クラス、金3クラス

授業科目(ナンバリング)	茶道文化ⅡB(AB202)			担当教員	安部直樹 ※柳井駿平		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
濃茶点前(後半)の習得を通して、もてなしについて考える力を培い、日常生活に必要な礼儀作法を身につけることを目的とする。また、三川内陶器市での抹茶点て体験の運営を通して、コミュニケーション力の向上や地域貢献に寄与する。さらに、オプション授業として、着付けや花生け、絵手紙のうちから選び、体験学習することで茶道の芸術性を理解する力を養う。							⑨⑩⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	炉と風炉の炭点前の違いを説明することができる。				小テスト	5%	
情報収集、分析力	体験学習をすることで茶道の芸術性を理解できる。禅語や花について情報を収集し、自己の修養のために役立てることができる。				オプションレポート 課題・レポート	10% 10%	
コミュニケーション力	三川内陶器市での抹茶点て体験で地域の方々と交流することができる。				茶会参加レポート	10%	
協働・課題解決力	実技(準備・片付け含む)に取り組む中で、グループの仲間と協調できる。				授業態度	15%	
多様性理解力	茶道実技の基礎である「濃茶点前」の流れを理解することができる。				点前確認	50%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
点前確認の成績を50%とし、濃茶点前の流れを理解しているかを評価する。なお、点前確認の範囲については、別途指示する。点前確認の結果については学生と個別に振り返りの時間を設けてフィードバックを行う。授業態度については15%とし、濃茶点前を実践するなど、授業への積極的な参加から評価する。課題とレポートについては10%とし、ポートフォリオ(manaba)を利用して行い、回答例などをフィードバックする。小テストについては5%とし、12回目にポートフォリオを用いて行う。オプションレポートや茶会参加レポートはそれぞれ10%とし、レポート様式に別途ルーブリックを記載する。							
授業の概要							
点前については、柄杓や水次の扱い方を学び、濃茶点前を完成させることを目標とする。教材として、茶道文化研究所作成の動画を予習・復習に用いる。授業内で使う抹茶・菓子、その他の消耗品など、1,500円の諸経費が必要である。オプション授業では、着付け、花生け、絵手紙のうちから選び、体験学習を通して芸術を理解する。オプション授業代は、内容に応じて別途必要(500円程度)である。カリキュラム上、茶道文化ⅡBを履修するためには、茶道文化ⅠA・ⅠB・ⅡAの単位を取得することが必須である。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：嶋内 麻佐子著『茶道文化基礎編』九州文化学園茶道文化研究所(2011年) 81～93頁 参考書：嶋内 麻佐子構成DVD『鎮信流 茶道点前』長崎短期大学特色GP関連事業(2007年) 長崎国際大学人間社会学部国際観光学科編『観光の地平』学文社(2011年) 指定図書：小山茂樹著『茶壺に追われてーほっこり宇治茶にこぼればなしー』淡交社(2009年)							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> 茶室での貴重品の取り扱い自己管理とする。茶道具を必ず持参する。アクセサリは身につけない。靴下を着用する。遅刻・欠席をしない。 学習として、茶会と茶事の仕組みについて『観光の地平』を読み、理解しておくこと。 茶道に関する茶花・道具などにも関心を持ち、日常生活の中で活かす努力をして頂きたい。 							

火3クラス、水1クラス、金1クラス、金3クラス

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	・三川内陶器市の概要	三川内陶器市での抹茶点て体験の概要を確認する。 (安部・柳井)	講義概要(シラバス)を確認する。
2	・三川内陶器市の準備①	抹茶の点て方や飲み方について復習する。 (柳井)	客作法の予習・復習をする。
3	・三川内陶器市の準備②	抹茶の点て方や飲み方について復習する。 (柳井)	客作法の予習・復習をする。
4	・フィールドワークとして三川内陶器市に参加	三川内陶器市での抹茶点て体験の運営を行い、地域の方との交流を深める。 (安部・柳井)	三川内陶器市の趣旨を確認する。
5	・濃茶点前(後半) (茶筌を洗うまで)	茶碗を洗い、茶筌を洒ところまでの流れを確認する。 (安部・柳井)	教科書 pp. 89~90 を読み、予習・復習をする。
6	・濃茶点前(後半) (道具を持ち帰るまで)	道具の持ち帰り方を理解する。 (安部・柳井)	教科書 pp. 90~93 を読み、予習・復習をする。
7	・濃茶点前稽古①	濃茶点前を確認する。 (柳井)	教科書 pp. 81~93 を読み、予習・復習をする。
8	・濃茶点前稽古②	濃茶点前を確認する。 (柳井)	教科書 pp. 81~93 を読み、予習・復習をする。
9	・濃茶点前稽古③	濃茶点前を確認する。 (柳井)	教科書 pp. 81~93 を読み、予習・復習をする。
10	・点前確認	濃茶点前についてどこまで理解しているか確認する。 (安部・柳井)	濃茶点前の完成を目指す。
11	・点前確認振り返り	点前確認を振り返り、記録カードを作成する。 (安部・柳井)	点前確認を振り返り、自己評価する。
12	・炭点前(炉) ・小テスト	炭点前(炉)を確認し、概要を理解する。 (安部・柳井)	教科書 pp. 63~69 を読み予習・復習する。
13	・オプション授業	オプション方式で授業内容を選択する。着付け、花生け絵手紙の授業内容のうちから1つを選び、体験学習をする。 (安部・柳井)	予習・復習については授業内で指示する。
14	・初釜	新年を祝う初釜を実施する。日本の正月や初釜について学び、鎮信流の流儀の特長を示す床の飾り方や、古来松浦家の風習について理解を深める。 (安部・柳井)	祝儀袋のマナーを予習・復習する。
15	・松芳忌	学校法人九州文化学園の創設者である安部芳雄(松芳)先生の遺徳をしのぶ。 (安部・柳井)	教科書 pp. 7~12 を読み、予習・復習する。 不祝儀袋のマナーを予習・復習する。

授業科目(ナンバリング)	茶道文化ⅡB(AB202)			担当教員	嶋内麻佐子		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
濃茶点前(後半)の習得を通して、もてなしについて考える力を培い、日常生活に必要な礼儀作法を身につけることを目的とする。また、三川内陶器市での抹茶点て体験の運営を通して、コミュニケーション力の向上や地域貢献に寄与する。さらに、オプション授業として、着付けや花生け、絵手紙のうちから選び、体験学習することで茶道の芸術性を理解する力を養う。							⑨⑩⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	炉と風炉の炭点前の違いを説明することができる。				小テスト	5%	
情報収集、分析力	体験学習をすることで茶道の芸術性を理解できる。禅語や花について情報を収集し、自己の修養のために役立てることができる。				オプションレポート 課題・レポート	10% 10%	
コミュニケーション力	三川内陶器市での抹茶点て体験で地域の方々と交流することができる。				茶会参加レポート	10%	
協働・課題解決力	実技(準備・片付け含む)に取り組む中で、グループの仲間と協調できる。				授業態度	15%	
多様性理解力	茶道実技の基礎である「濃茶点前」の流れを理解することができる。				点前確認	50%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
点前確認の成績を50%とし、濃茶点前の流れを理解しているかを評価する。なお、点前確認の範囲については、別途指示する。点前確認の結果については学生と個別に振り返りの時間を設けてフィードバックを行う。授業態度については15%とし、濃茶点前を実践するなど、授業への積極的な参加から評価する。課題とレポートについては10%とし、ポートフォリオ(manaba)を利用して行い、回答例などをフィードバックする。小テストについては5%とし、12回目にポートフォリオを用いて行う。オプションレポートや茶会参加レポートはそれぞれ10%とし、レポート様式に別途ルーブリックを記載する。							
授業の概要							
点前については、柄杓や水次の扱い方を学び、濃茶点前を完成させることを目標とする。教材として、茶道文化研究所作成の動画を予習・復習に用いる。授業内で使う抹茶・菓子、その他の消耗品など、1,500円の諸経費が必要である。オプション授業では、着付け、花生け、絵手紙のうちから選び、体験学習を通して芸術を理解する。オプション授業代は、内容に応じて別途必要(500円程度)である。カリキュラム上、茶道文化ⅡBを履修するためには、茶道文化ⅠA・ⅠB・ⅡAの単位を取得することが必須である。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：嶋内 麻佐子著『茶道文化基礎編』九州文化学園茶道文化研究所(2011年) 81～93頁 参考書：嶋内 麻佐子構成DVD『鎮信流 茶道点前』長崎短期大学特色GP関連事業(2007年) 長崎国際大学人間社会学部国際観光学科編『観光の地平』学文社(2011年) 指定図書：小山茂樹著『茶壺に追われてーほっこり宇治茶にこぼればなしー』淡交社(2009年)							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> 茶室での貴重品の取り扱いが自己管理とする。茶道具を必ず持参する。アクセサリは身につけない。靴下を着用する。遅刻・欠席をしない。 学習として、茶会と茶事の仕組みについて『観光の地平』を読み、理解しておくこと。 茶道に関する茶花・道具などにも関心を持ち、日常生活の中で活かす努力をして頂きたい。 							

水3クラス

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	・三川内陶器市の概要	三川内陶器市での抹茶点て体験の概要を確認する。	講義概要(シラバス)を確認する。
2	・三川内陶器市の準備①	抹茶の点て方や飲み方について復習する。	客作法の予習・復習をする。
3	・三川内陶器市の準備②	抹茶の点て方や飲み方について復習する。	客作法の予習・復習をする。
4	・フィールドワークとして三川内陶器市に参加	三川内陶器市での抹茶点て体験の運営を行い、地域の方との交流を深める。	三川内陶器市の趣旨を確認する。
5	・濃茶点前(後半) (茶笥を洗うまで)	茶碗を洗い、茶笥を酒ところまでの流れを確認する。	教科書 pp. 89~90 を読み、予習・復習をする。
6	・濃茶点前(後半) (道具を持ち帰るまで)	道具の持ち帰り方を理解する。	教科書 pp. 90~93 を読み、予習・復習をする。
7	・濃茶点前稽古①	濃茶点前を確認する。	教科書 pp. 81~93 を読み、予習・復習をする。
8	・濃茶点前稽古②	濃茶点前を確認する。	教科書 pp. 81~93 を読み、予習・復習をする。
9	・濃茶点前稽古③	濃茶点前を確認する。	教科書 pp. 81~93 を読み、予習・復習をする。
10	・点前確認	濃茶点前についてどこまで理解しているか確認する。	濃茶点前の完成を目指す。
11	・点前確認振り返り	点前確認を振り返り、記録カードを作成する。	点前確認を振り返り、自己評価する。
12	・炭点前(炉) ・小テスト	炭点前(炉)を確認し、概要を理解する。	教科書 pp. 63~69 を読み予習・復習する。
13	・オプション授業	オプション方式で授業内容を選択する。着付け、花生け絵手紙の授業内容のうちから1つを選び、体験学習をする。	予習・復習については授業内で指示する。
14	・初釜	新年を祝う初釜を実施する。日本の正月や初釜について学び、鎮信流の流儀の特長を示す床の飾り方や、古来松浦家の風習について理解を深める。	祝儀袋のマナーを予習・復習する。
15	・松芳忌	学校法人九州文化学園の創設者である安部芳雄(松芳)先生の遺徳をしる。	教科書 pp. 7~12 を読み、予習・復習する。 不祝儀袋のマナーを予習・復習する。